

## 自由の剣

過ぎ行く日々の疎ましく  
空覆う灰色の雲の彼方に白い雲  
それを背景に教会の塔  
限りなく停止に近い時の流れはないものか

過ぎ行くことに何の意味  
坂上がる僕に航路なく  
花壇のアジサイには疲れた緑  
静止のうちに流れるものはないものか

消え行く果てにはスケルツォ

やす いとま  
憩む暇もなく反生が生に続く

エントロピーのある限り運動もある  
ああ、想うがための生はないものか

手に余る宇宙は電子頭脳に任せ  
歴史は己が罅いを補強するばかり  
それほどに世界は頑是無く  
この僕にも、あの手この手でちょっかいの雨あられ

創造は裏を返せば防備にすぎず  
理解は則ち武装にすぎない  
ああ、静止のうちに流れるものはないものか  
そのみが自由をものにする唯一の剣なのに・・・

(1991.7.2)